

令和5年度 公立高等学校入学者選抜

学力検査問題

国 語

注 意

- 1 検査係員の指示があるまで、問題冊子と解答用紙に手をふれてはいけません。
- 2 問題は【問一】から【問五】まであり、問題冊子の2～9ページに印刷されています。10ページには、下書き用の枠があります。
- 3 問題冊子とは別に、解答用紙があります。解答は、すべて解答用紙の の中に書き入れなさい。
- 4 解答用紙にマスがある場合は、句読点、カギ括弧（「や」）などもそれぞれ一字と数えて書きなさい。
- 5 下書きが必要なときは、問題冊子のあいているところ、または10ページの下書き用の枠を使いなさい。

【問一】 次の文章を読んで、下の各問いに答えなさい。

著作権の関係から本文は掲載できません。

(1) 文章中の~~~~線部のよみがなを、ひらがなで書きなさい。

- ① 粘液 ② 通称 ③ 余剰
④ 乏しい ⑤ 賃金 ⑥ 匂い

(2) ——線部 a、b の品詞を、次のア～エから一つずつ選び、記号を書きなさい。

〔ア 副詞 イ 連体詞 ウ 形容詞 エ 形容動詞〕

(3) ——線部①について、本文の内容を踏まえ次のように説明するとき、**A**、**B** に当てはまる最も適切な言葉を、本文中からそれぞれ指定された字数で抜き出して書きなさい。

特定の種同士がお互いの **A**(七字) 関係のことであり、多くの場合、双方が **B**(九字) していることも見逃せない特徴である。

(4) 本文における筆者の論理の展開についての説明として適切なものを、次のア～エから二つ選び、記号を書きなさい。

- ア 自然界の共生と人間社会の製品流通の仕組みの共通性に着目し、役割の違いの重要性を中心に考察している。
イ 自然界の共生に関する科学的な知識を手がかりに、人間社会における共生の意味と可能性を考察している。
ウ 自然界の二つの例を対比的に用い、その相違点から、科学的な知識をもとに人間社会の問題を考察している。
エ 科学的な知識を利用するだけでなく、デザインや歌などを例として挙げ、共生についての考察を進めている。

著作権の関係から本文は掲載できません。

(5) 本文の内容を次のようにまとめた。 [C] [E] に当てはまる最も適切な言葉を、あとのア〜クから一つずつ選び、記号を書きなさい。

特定の相手の心に寄り添い、その [C] を深く理解することで形成される強固な [D] が、より多くの人々に感動と強い共感を与える [E] の起点となる。

ア 提供 イ 創造 ウ 自覚 エ 流通
オ 幸福感 カ 利他性 キ 特殊性 ク 関係性

(6) 筆者は本文の最後を「かもしれない」という言葉で締めくくっている。このことの説明として適切なものを、次のア〜エから二つ選び、記号を書きなさい。

ア 遠回しな表現を最後まで続けることで、読み手の考えを誘導しようとしている。

イ 自然界の例とは異なり、実証できる事柄ではないので、断定的な表現を避けている。

ウ 筆者による一方的な主張という印象を和らげ、読み手に考えさせる効果を生んでいる。

エ 文末表現に変化を与えることで抑揚をつけ、読み手の感情移入を促し、内容の理解を助けている。

(7) ——線部②とあるが、筆者が述べている「機能としての価値」、「感性的な価値」のそれぞれについて、**自転車**、**手袋**、**絵本**のうち一つを具体例に用いて、対比的に説明することになった。次の〈条件1〉〜〈条件3〉に従って書きなさい。

〈条件1〉自分が取り上げた例を明確に示し、「機能としての価値」、「感性的な価値」の言葉を用いて、それぞれの説明を具体的に書くこと。

〈条件2〉「感性的な価値」については、どのような感情が呼び起こされるのかを含めて書くこと。

〈条件3〉七十字以上九十文字以内で書くこと。

(太刀川英輔「進化思考生き残るコンセプトをつくる「変異と適応」」)

【問二】 東山さんの中学校では、例年、文化祭で各学級の地域貢献活動について発表している。清掃活動に取り組んでいる東山さんの学級では、今年度の発表に向け、学級全体で話し合う中で、発表テーマが決まり、扱う発表内容が挙げられた。それを受け、東山さんは、発表を担当する係の仲間と、発表の構成などについて話し合っているところである。次のⅠ～Ⅳを読んで、下の各問いに答えなさい。

Ⅰ 学級全体で話し合った【発表テーマ】と【発表内容】

【発表テーマ】
小さな積み重ねが、地域みんなの喜びへ

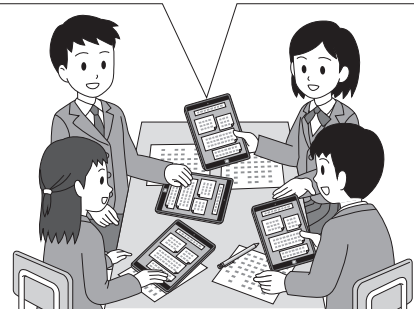
【発表内容】

〈活動を決めた経緯〉
道路のごみを拾っている方や公園の管理をしている方を見て、役に立ちたいと思ったから。

〈活動の内容〉
・週1回、学校周辺のごみ拾い。
・月2回、駅前公園の清掃。

〈活動の感想(主な内容)〉
・清掃中に地域の方から励ましの言葉をもらい、地域の一員として認められたように感じてうれしくなった。
・活動を重ねるにつれ、徐々にきれいになっていくのを見て、大切な活動だと改めて感じた。

〈活動の目的〉
地域をきれいにして、地域みんなの住み心地をよくする。



Ⅱ 発表全体の構成を決める話し合いの様子

西川 発表全体の構成を決めていきたいのだけれど、発表内容をどの順番で発表していけばいいかな。

南原 活動を決めた経緯から、時間の流れに沿って発表すれば、私たちの活動を知らない他の学級の人にも、取り組みの流れが分かりやすくなると思う。昨年度の発表のときに、時間の流れに沿って活動を説明してくれた学級があって、活動について知らなかった私にも、分かりやすかったよ。

北野 活動の内容から発表するのはどうか。小学生の頃、地域の方々に総合的な学習の時間の発表をしたのだけれど、そのときに、活動の内容から紹介したら、私たちの活動についてよく知らなかった方にも「最初に活動の内容の紹介があって発表が分かりやすかった」という感想をもらったよ。だから、①活動の内容から伝えると分かりやすいと思うな。

東山 南原さんと北野さんの発言で共通することは、**A**だね。どちらも分かりやすさを大事にしている。

南原 私たちの思いがより伝わるとい点からも、活動を決めた経緯から発表することは、活動を始めた理由や思いが分かった上で、活動の目的や内容、感想を聞いてもらえるからいいと思うよ。

北野 そうか。私たちがなりに考えて、思いをもって取り組んできたことだから、それを踏まえて発表を聞いてほしい。活動を決めた経緯から発表するのがいいかもしれないね。

西川 では、活動を決めた経緯から発表することにしようか。(…話し合いは続く)

(1) Ⅱの——線部①について、北野さんのaの発言を踏まえ、このように考えられる理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

- ア 聞き手が、どのような活動だったのかという疑問を抱きやすくなるから。
- イ 聞き手が、どのような活動だったのか想像しやすくなるから。
- ウ 聞き手に、新たな活動を始める決意を伝えられるから。
- エ 聞き手に、なぜ清掃活動を選んだのか知ってもらえるから。

(2) Ⅱの **A** に当てはまる最も適切な言葉を、次のア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

- ア 経験をもとに、活動について知らない相手を想定し、聞き手の立場から発表の順番を考えていること
- イ 様々な相手を想定し、自分たちの活動に協力してもらえようように発表の順番を考えていること
- ウ 経験にとらわれないことなく、柔軟な発想で発表の順番を考えていること
- エ 聞き手の立場から新しい視点を取り入れ、予定にないことも発表しようとしていること

Ⅲ 最後の感想の発表方法を決める話し合いの様子

東山さんたちは、発表方法を考える手がかりとして、これまでの国語の学習内容をⅣのようにノートにまとめ、参考にすることにした。そして、話し合いの中で、それぞれの発表内容の発表方法が決まってきた。

西川 では、発表の最後に扱う、活動の感想の発表方法を考えよう。

南原 ノートにあるように、素直な表現で思いを伝えるために、話すときの表情や身振りを大切にしたいよ。だから、話し手へ注目を集めるように、あえてスライドを見せずに話すのもいいよね。

北野 **b** そうかな。私は反対に、感想の文章をスライドで見せて発表するのがいいと思う。聞き手が必要に応じて文章を読み返すことで、内容を理解しやすくなると思うよ。

南原 文章を読み返せるけれど、その分、聞き手の視線が話し手に集まりにくくなるよ。それよりも、話し手に視線が集まれば、話し方を工夫する効果も高まって、思いがより伝わりやすくなると思うよ。
北野 **a** なるほど。話し方の工夫の効果を高めることは大事かもしれない。でも、私は、話した内容は消えていくから、印象に残りにくいと思うよ。

南原 北野さんの言うこともわかるけれど、感想だからこそ思いを伝えることを大切にしたい。それに、聞き手に思いが伝わっていないと感じたら、表現を選んで話す工夫ができるよ。
c そんなときに文章全部が映してあると、違う表現を選びにくいと思う。

東山 二人の意見を組み合わせたらどうか。情報が多くならないようにしながら、読み返してもらったり、中心となることを強調したりできるように、

B と思うよ。(…話し合いは続く)

Ⅳ これまでの国語の学習内容をまとめたノートの一部

【話すときのポイント】

- ・ 自分の思いを飾らず素直に表現し、視線、表情、身振り手振りなども工夫する。
- ・ 聞き手の反応によって、言葉や表現を選んだり、内容を補ったりする。
- ・ 話した内容は、音声のままだとその場限りで消えてしまうので、伝え方を工夫する。

【スライドを見せるときのポイント】

- ・ 内容を映すと読み返してもらえないことなどを踏まえ、視覚的に伝わりやすくなるよう工夫する。
- ・ 伝えたいことの中心となることを強調できるので、キーワードなどを映す。
- ・ 映す情報が多いと伝わりにくいことがあるので注意する。

(3) Ⅲの——線部②の北野さんの発言を説明したものと最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

ア 相手の意見と自分の意見との共通点に注目し、納得できた理由を伝えている。

イ 相手の意見と自分の意見との相違点に注目し、納得できないことについて相手に質問している。

ウ 相手の意見の納得できる部分に共感して、自分の意見が変わったことを伝えている。

エ 相手の意見の納得できる部分を受け止めつつ、違う角度から自分の意見を伝えている。

(4) Ⅲの **B** に当てはまる適切な言葉を、北野さんの **b** の発言と南原さんの **c** の発言を踏まえ、Ⅳの【話すときのポイント】と、【スライドを見せるときのポイント】のそれぞれの中にある言葉を使って、四十字以上五十字以内で書きなさい。

(5) 発表方法を決める話し合いの後、発表原稿を作って推敲したところ、活動の感想について、Ⅰの【発表テーマ】に直接つながる内容のものを増やすことになった。増やす感想として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

ア ごみを拾っている、通学路にある危険な場所にも気づくようになった。

イ 自分がんばって清掃をした分だけ、駅前公園を大事に使いたい気持ちが大きくなった。

ウ きれいになった駅前公園を見て多くの人が喜んでる姿から、達成感を覚えた。

エ ごみ拾いをしていたら、自然を守るためにもっと様々な活動がしたいと思うようになった。

【問三】 次の①～③から、誤って使われている漢字一字をそれぞれ抜き出して書き、同じ読みの正しい漢字を楷書でそれぞれ書きなさい。

- ① 昔ながらの共同浴場が点在する温泉街を訪れる機会を設け、迎りを参策してみたい。
- ② 沖繩に転勤した知人へ、畑でとれた梨を高空便で送ったところ、礼状が届いた。
- ③ かぜの予忘に努めていたが、朝、寒気がして熱もあったので、かかりつけ医に薬を処方してもらった。

【問四】 次に示すのは、文章Ⅰが『伊曾保物語』の一節、文章Ⅱが『莊子』の一節を書き下し文に改めたものである。これらを読んで、下の各問いに答えなさい。

文章Ⅰ

ある時、鹿、河のほとりに出でて水を飲みける時、汝が角の影、水に映つて見えければ、

この角の有様を見て、「さて、我が頂きける角は、万の獸の中に、また並ぶものあるべからず」

と、かつは高慢の思ひをなせり。また、我が四つ足の影、水底に映つて、いと頼りなく細くして、

しかも蹄二つに割れたり。また、鹿、心に思ふやう、「角はめでたうはべれど、我が四つの足は

うとましげなり」と思ひぬるところに、心より、人の声、ほのかに聞こえ、その外、犬の声も

しけり。これによつて、かの鹿、山中に逃げ入り、あまりに慌て騒ぐほどに、ある木のまたに、

おのれが角を引きかけて、下へぶらりと下がりにけり。抜かん抜かんとすれどもよしなし。

鹿、心に思ふやう、「よしなきただ今の我が心や。いみじく誇りける角は、我が仇になつて、

(1) 文章Ⅰ、文章Ⅱの〰〰〰線部の言葉を現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書きなさい。

- ① おもふやう ② なほ

(2) 線部①「高慢の思ひをなせり」と同様の意味で用いられている言葉を文章Ⅰの本文中から八字で抜き出して書きなさい。

(3) 線部②とあるが、鹿がそのことに気づいたのはなぜか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

- ア 足の力によって木から角を抜いて逃げる事ができるから。
イ 足のはたらきによって、ここまで逃げてくる事ができたから。
ウ 他のどの動物よりも速く走ることができたから。
エ 自分の足が細いわけではないことに気づいたから。

(4) 文章Ⅰの内容として適切なものを、次のア～カから二つ選び、記号を書きなさい。

- ア 何が自分の強みとなり、弱みとなるかは自分ではわからないので、自己評価よりも他者からの評価を大切にすべきである。
イ 自分自身に対する過大評価が失敗の原因となることがある一方、自分自身に対する過小評価が成功の要因となることがある。
ウ 強みだと思っていた所が自分の弱みとなることがある一方、弱みだと思っていた所が自分の強みだったと後から気づくことがある。

② うとんずる四つの肢こそ我が助けなるものを」と、
独言して思ひ絶えぬ。
いやだと思っていた 足 あきらめた

そのごとく、人もまたこれに変はらず。「いつきかしづきけるものは仇となつて、うとんじ
大切にしていた

退けぬるものは我が助けとなるものを」と後悔すること、これ、ありけるものなり。

文章Ⅱ

③ 恵子、^{*}莊子に謂ひて曰く、^{*}子の言、用無し、と。莊子曰く、用無きを知りて、
あなた 役に立たない 役に立たないといふことを理解して

始めて与に用を言ふべし。夫れ地は広く且つ大ならざるに非ざるなり。
役に立つといふことを論ずべきだ そもそも大地は広く そしてまた大きいものだ

人の用ふる所は足を容るるのみ。然らば則ち足を測りて之を墊り、
人が使う所は 足がついている地面だけだ そうであるならば 足の寸法を測り、その広さだけ残して周囲を

黄泉に致さば、人尚ほ用ふる有りや、と。恵子曰く、用ふる無し、と。
くわうせん 地の底まで掘り下げたとすると、それでもその立っている場所が人の役に立つだろうか

莊子曰く、然らば則ち無用の用たるや亦明らかななり、と。
役に立っていることは

* (注) 恵子 人名 莊子 人名

Ⅰ 親切が相手に思われぬ悪い結果をもたらすことがある一方、
冷淡に接することが相手の助けとなることがある。
才 重んじていた人が自分を害することがある一方、遠ざけていた
人が実は自分を助けてくれる存在であったと悔いることがある。
力 誰が自分の敵となり、誰が自分の味方となるかはわからない
ので、人と付き合う場合は相手の人柄を見極めるべきである。

(5) — 線部③は、「謂莊子曰、子言無用」を書き下し文に改めたもの
である。返り点を付けなさい。

(6) 文章Ⅱの内容を次のようにまとめた。 A に当てはまる適切な
言葉を、二十字以上二十五字以内で書きなさい。

足がついている地面の周りの大地を掘り下げることは、次の
一步を踏み出す大地がなくなり、歩けなくなることの意味する。
このように、役に立つと思われているものは、それだけで役に
立っているのではなく、 A 成り立っているといえる。

(7) 文章Ⅰと文章Ⅱを授業で読んだ青木さんは、二つの文章の内容に
共通するものの方や考え方について、次のような感想を書いた。
B に当てはまる最も適切な言葉を、あとのア～エから一つ
選び、記号を書きなさい。

自分では B を見いだせなかったり、世の中で B が
ないと思われたりしているものが、実は大きな B をもって
いることに気がついた。自分の性質や物事について決めつけた
見方をしないことが、生きていく上で大切だと感じた。

〔ア 眞実 イ 理由 ウ 希望 エ 価値〕

【問五】 次の文章を読んで、下の各問いに答えなさい。

靖成は力士の鬘を結う床山という仕事をしている。床芝の姿に憧れ、十五歳で床山見習いとなった。床芝から入門祝いとして櫛を贈られ、よいスタートを切った靖成だったが、五か月がたち、徐々にうまくいかないことが増え、悩み始める。ある日、力士の一人である兄弟子の松岡の鬘を結っているとき、松岡の髪を強く引つ張つてしまい、怒鳴られて押されたはずみで櫛を落とし、櫛の歯を折ってしまった。仕事が嫌になった靖成は、部屋を飛び出した。実家に帰ろうと駅に行くが、ほとんどお金を持っていなかったことに気づく。途方に暮れた靖成は床芝に電話をかけていた。

およそ三十分後、床芝はやって来た。いつも部屋で着ているようなスーツ姿だったから、着替えずに駆け付けてくれたのだろう。心なしか、息も少し上がっているような気がする。

「すみません。わざわざ来ていただいて」

床芝は怒らなかつた。ただ、「よほどのことがあったんだろ」と軽く目を伏せた。たぶん、逃げ出そうとしていたことはバレているのだろう。ごまかすのはやめて、靖成はこれまでのいきさつを洗いざらい打ち明けた。櫛の歯が折れてしまったことも、正直に話した。また涙がこみ上げそうになって、途中で何度も言葉に詰まった。床芝は黙って聞いていたが、靖成の話が終わると、

「で、どうしたいんだ？ お前は」と静かに尋ねた。

「……どうしたい、って」

そう聞かれて初めて、自分が何も考えていなかったことに気づく。勢いで部屋を飛び出したものの、実家に帰って、いったいどうするつもりだったのだろう。

「もし辞めるつもりなら、俺は反対しない。その兄弟子はやりすぎだと思うし、こういうのは最終的にお前が決めることだからな。だけど」

床芝はそこで一度、言葉を切った。

「お前、いつだったか言ってなかったか？ 若閨が優しくなったのは俺のおかげだ、思いが伝わったからあの人は変わったんだって。お前はどうかんだ？ 誰かを変えられるほどの仕事か、できているのか？」

「そ、それは」

できているか、と聞かれたら、できていなかった。だけど毎日怒鳴られていたら、仕事に見切りをつけたくもなるだろう。

「そりゃ、やる気なくすのもわかるけど」

靖成の考えを見透かしたかのように、床芝がため息をついた。

「前にも言った通り、俺は若閨を支えるつもりでずっと、鬘を結ってきた。たとえきつく当たられてもな。だけど俺が一度もハラを立ててなかったなんて、お前本気で思っているのか？」

え、と息を呑む。あるとき靖成の瞳に映ったのは、どこまでも優しく、真面目な床芝だった。

その床芝が若閨に怒りを覚える姿など、想像できなかった。

「ふざけんな、昇進が早かったからってチヨウシに乗るんじゃないねえ、って何度も思ったよ。今のお前みたいな、逃げ出そうとしたこともあった。それなのになんで辞めなかったか、理由がわかるか？」

わからぬ。首を横に振ると、もうちょっと考えろよ、とたしなめられた。

「正解を言うとな、裏方の中でも床山が、力士が一番近い存在だからだ。俺たちは行司や呼出と違って、土俵には上がらない。だけど唯一、力士と直に接する仕事だろ？」

「ああ、はい」

(1) 文章中の〰〰線部を漢字に直して、楷書で書きなさい。

- ① ハラ ② チヨウシ

(2) 次の作品は、文章中にある漢字を行書で書いたものである。楷書で書いた場合と比較したとき、○で囲まれたあこの部分に表れている行書の特徴として最も適切なものを、下のア～エから一つずつ選び、記号を書きなさい。



- ア 点画の省略
イ 直線的
ウ 点画の連続
エ 筆順の変化

(3) 線部①と同様の意味をもつ四字熟語として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号を書きなさい。

- ア 単刀直入 イ 一部始終
ウ 清廉潔白 エ 徹頭徹尾

(4) 線部 a～e についての説明として適切なものを、次のア～オからすべて選び、記号を書きなさい。

- ア aの「軽く目を伏せた」には、靖成が緊張せずに思いを語る
ことができるように思いやる床芝の気遣いが含まれている。
イ bの「言葉を切った」には、靖成の言葉を一旦さえぎり
落ち着かせようとする床芝の冷静さが表れている。
ウ cの「ため息をついた」には、怒鳴りつけることで靖成の
やる気を失わせた松岡に対する床芝の失望が含まれている。
エ dの「息を呑む」には、床芝に自分の考えを見抜かれ、その
上、突然問い詰められて戸惑う靖成の驚きが表れている。
オ eの「声を荒らげた」には、自分の期待を素直に受け止め
ない靖成に対する床芝のいら立ちが表れている。

言われてみればその通りだが、正直まだピンと来ていない。そんな靖成を諭すように、床芝はじっと目を見て続けた。

「だんだん体がでかくなってるなとか、こんなにたくさんかすり傷ができるまで稽古したんだなとか、今緊張してるんだなとか……すぐそばで鬘を結ってたら、わかるんだ。こいつらは懸命に、この世界で生きてるって。若関なんか、まさにそうだった。元々体格には恵まれてなかったけど、あのなりに体を大きくしようとしていたし、いつ見てもどこかしらに生傷があった。何より、俺は絶対強くなるんだってという闘志を、ばしばし感じた」

松岡はどうだったかなと思いついて出そうとしたが、できなかった。そこまで松岡に注意を向けたことは、一度もなかった。

床芝は相変わらず静かな、だけどいたって真剣な眼差しを、靖成に向けていた。

「若関のそういう姿を見ると、不満ばっか垂れてる自分がだんだん情けなくなってきた……せめて俺も、こいつと同じくらい必死でやらないと、って思ったんだよ」

靖成も、床芝から目を逸らすことができなかった。逸らしてはいけないと、頭の中で声がした。「……床芝さん」

次の言葉を発しようとする、唇が震えた。それでも息を深く吸い込み、はっきりと言いつ切った。「俺、部屋に戻ります」

床芝は無表情で頷くと、百円玉を二枚寄せた。「だったら早く帰れ。切符、これだけあれば足りるだろ？」

それから「ほら」と、何かを差し出した。見ると、鬘結いのときに使う櫛だった。細かい傷が付き、歯の根元に髪が絡まっている。いくぶんか使い込まれたものようだ。

「それ、大事なものですよね？　なんで俺に」
「そこまで言いかけたら、「ああもう、お前って奴は」と、珍しく床芝が声を荒らげた。

「どうしてそこで遠慮するんだ。櫛、折れて使えないんだろ？　戻っても仕事にならねえから、黙って受け取れ。予備の櫛は、今後ちゃんと用意しておけばいいから」

無理やり櫛を押し付けてくる床芝の指を見て、はっとした。彼の指はたくましく、それでいて爪が短く切り揃えられていた。以前、巡業で見せてもらったときと同じ、職人の指だった。

一方、靖成の指は簡単に折れてしまいそうなくらい細くて、爪もずいぶん伸びていた。指の太さは仕方がないとはいえ、俺はこんな状態で鬘を結っていたのかと、愕然とした。

床芝さん、ともう一度呼びかけると、できるだけ深く頭を下げた。

「ありがとうございます。今度はちゃんと、大事にします」

「ああ。もう落とすなよ」
床芝はそれだけ言って、早々と自宅へ帰っていった。靖成も、もらった櫛を慎重にしまうと、百円玉二枚を握りしめて地下鉄の切符売り場へと急いだ。

(鈴村ふみ「大銀杏がひらくまで」 問題作成上ふりがなをつけた箇所がある)

(注)

鬘＝髪をたばねて結ったもの

部屋＝床山として働いている相撲部屋のことであり、床山も力士と同じように部屋に弟子入りする

若関＝床芝が髪を結っていた力士 行司＝相撲の勝負の判定役

呼出＝取り組む力士の名を呼んで土俵に上らせたり、土俵の整備をしたり、取組の進行などをしたりする役 土俵＝相撲を取る円形の場合 巡業＝相撲の興行で各地を回ること

(5) この文章を読んだ上野さんは、印象に残った場面について次のようにまとめた。 **A** に当てはまる適切な言葉を、本文中の言葉を使い、十五字以上二十五字以内で書きなさい。

印象に残ったのは、靖成が部屋に戻る決意をした場面です。ここでは床芝が若い頃仕事を辞めなかった理由を語ります。そこで、靖成は、床山がどのような存在なのか、床芝がどのような思いで働いていたのかを聞き、自分の姿を重ねて振り返り、自分には床山にとって最も大切な **A** という思いが欠けていたと気づくのです。靖成の心情が大きく変化した場面として心に残りました。

(6) この文章を読んだ山下さんは、——線部②にある「できるだけ深く」という言葉に着目し、付せん1、2を踏まえて、このときの靖成の心情を次のようにまとめた。 **B** に当てはまる適切な言葉を、あとの〈条件1〉、〈条件2〉に従って書きなさい。

「できるだけ深く頭を下げた」という行為には、櫛をもらった感謝以外にも、 **B** が表れている。

付せん

1 線部①「はっとした」という描写から、力士の髪を傷つけないように爪を短く切り揃えている床芝が、自分の目指す職人の姿であることに改めて気づいた様子がわかる。

2 線部②「愕然とした」という描写から、爪が伸びていた自分の状態を振り返り、ひどく驚いた様子がわかる。

〈条件1〉爪という言葉を使って書くこと。
〈条件2〉六十字以上八十字以内で書くこと。

これより先に問題はありません。
下書きなどが必要なときには、自由に使ってかまいません。

※下書き用の枠

【問二】(7)

(7)			
80	50	20	
	70	40	10
90	60	30	

【問五】(6)

(6)			
80	50	20	
	70	40	10
	60	30	

